

学校教育目標	「健康」「責任」「友情」「創造」「努力」を尊重し実現する資質を備えた人間を育成し 生徒一人一人に幸せな未来を切り拓く力を育てる そのために、 ○安全・安心な学校生活を保障する。 ○これからのグローバル社会に生きる力をイメージする。 ○生徒一人一人の力を最大限に伸長する。	教育 ビ ジ ョ ン	【目指す学校像】 (1)生徒に生きる力(確かな学力、豊かな人間性、健康と体力)を育む学校 (2)生徒の自己有用感を高め、可能性を最大限に伸ばす学校 (3)保護者や地域社会の期待に応え、生徒と教師の信頼関係が築かれている学校
	【目指す児童・生徒像】 (1)目標に向かい主体的に学び考え行動する生徒 (2)自分の役割や責任を認識し、そこに価値を見出し自己肯定感をもつ生徒 (3)心身の健康を保持増進し、自分の可能性に挑戦する生徒 (4)課題解決への意志をもち、よりよい未来社会を創造しようとする生徒		
	【目指す教師像】 (1)授業を大切に、生徒一人一人の力を伸長させるため、常に授業力の向上を目指す教師 (2)厳しさと温かさを兼ね備え、生徒一人一人の個性や可能性を伸ばすとともに、生徒に社会人としての範を示す教師 (3)生徒、保護者や地域社会の期待に応え、厚い信頼を得る教師		
前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】不登校傾向の生徒への適切な対応、いじめ問題への対応、ICT機器の各授業での活用、特別支援教室の活用、道徳授業での取り組み 【課題】感染症予防としての生徒の活動の保障、ライフワークバランスと職員の健康、学校図書館の活用		4:高く評価できる 3:評価できる 2:部分的に見直しが必要 1:全面的に見直すべき

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和5年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」			取組指標	成果指標	取組	成果	評価平均	コメント	
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	○キャリア教育の充実とそれによる自己肯定感の強化	○ドリームマップなどキャリア教育による自己肯定感の強化 ○特別活動・学校行事での自己有用感の涵養	○各学年でのキャリア教育での自己肯定感を高める取り組みの実施	○生徒アンケート回答での自己有用感ありが A: 85%以上 B: 65%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	4	「自分が役に立っている」 80% 3	3.3	・アンケートの集計結果が概ね良好で安心した。 ・大門タイムは継続して欲しい。	感染予防対策をしつつ、委員会活動・係活動や諸行事の取り組みの中で、自己有用感を感じさせる場面を増やしていく。
2	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	○人間関係形成能力育成 ○道徳の授業改善	○学級経営へのQUテストの活用 ○大門タイムでの人間関係形成能力育成	○QUテスト実施後の分析と働きかけの実施 ○大門タイムの各学年での実施	○2回目QUテストでの友人との関係が全国平均以上の学級 A: 100% B: 85%以上 C: 75%以上 D: 75%未満	4	全クラス平均以上 4	4.0	・TGG体験は成果が出ている。	時間の工夫をし、大門タイムを来年度も継続させていく。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	○学校いじめ防止対策委員会を中心とした未然防止、早期発見、組織的な対応の確立	○各校内組織の情報共有の効率化による早期発見と組織的な対応	○生活指導部会・教育相談委員会をそれぞれ30回/年以上実施	○生徒アンケート回答でのいじめ拒否の意識ありが A: 95%以上 B: 85%以上 C: 75%以上 D: 75%未満	3	「いじめが起きたとき、誰かに相談できますか」 79% 2	2.3	・学校内のWifi環境の増強をしてもらいたい。 ・個々の自主性を高める指導を期待する。	スクールカウンセラー、保健室、学年教員の役割の工夫で生徒が相談できる窓口を意識させる。
4	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	教育相談体制の充実	○不登校生徒への適切な対応、及び外部機関等との適切な連携による、卒業後も含めた指導	○スクールカウンセラー、SSW、市適応教室、子ども家庭支援センター、児童相談所との連携強化	○スクールカウンセラーとの毎週の情報共有と方針確認	○不登校傾向生徒の状況改善が A: 75%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	4	学校・外部機関と連携進行が84% 4	4.0	・善悪の判断や思いやりの心、支え合いの精神を身に付ける指導を期待します。	子ども家庭支援センターとの連携、SSWとの連携を今後も大切にし、構内の相談委員会での毎週の見直しによって生徒の家庭の状況変化に対応していく。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	○新学習指導要領導入に合わせた校内研修等での授業改善	○校内での研究授業での主体的・対話的な深い学びへの意識啓発 ○指導と評価の一体化を目指す英語科の取り組み	○校内研究授業・意見交換の実施 ○英語科の単元テストの取り組み	○生徒アンケート回答での授業改善への肯定的評価が A: 85%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	4	生徒アンケートで 92% 4	4.0	・いじめは絶対あってはいけけない。未然防止の対策をお願いします。 ・学力を向上させるために授業の工夫や改善に一層の努力を期待します。	各教科での授業アンケートの活用と校内研究での授業改善の取り組みを継続していく。
6	II 学力向上	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	英語教育と国際理解教育の推進	○英語科での生徒の学びに向かう意欲の向上と国際感覚の醸成	○各学年でのTGG利用による国際理解と学習意欲の向上	○TGGの有効利用とそのための事前・事後学習	○生徒アンケート回答での英語学習への意欲ありが A: 75%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	4	生徒アンケートで 82% 4	4.0	・校長のリーダーシップを評価します。これからも校長のリーダーに期待します。	TGG体験の取り組みを、実施方法等見直ししながら続けていく。
7	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	○ICT機器の効果的な利用による、生徒の学習意欲の向上	○ギガスクール導入機器と既存のICT機器の活用	○授業や特別活動でのタブレットの新しい活用方法の試み	○生徒アンケート回答での活用への肯定的評価が A: 80%以上 B: 75%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	3	生徒アンケートで 93% 4	4.0	・(いじめ相談)担任だけでなくスクールカウンセラー・養護教諭・その他相談しやすい環境(人の配置)をつくっていきけるといいと思います。	他教科でのタブレットの活用方法を伝え合う場面をつくることで積極的な活用方法の工夫を進める。サーバーのでの保存の工夫で保存容量を確保する。
8	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	○特別支援教室の活用と充実	○特別支援コーディネーターを中心とした教育相談委員会での大門けやきとの連携強化	○特別支援教室での活動内容への教職員の理解を深めることによる適切な教室活用の推進	○大門けやき利用生徒の状況安定・改善が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 50%未満	4	全員が安定 4	4.0	・夜遅く、また休日に出勤されている先生方を多く見かけます。外部機関への業務委託や業務効率化のためPC等の整備、行事を精選していき先生方が生き生きと働ける職場になると教材研究に充てる時間が増え、学力向上にもつながると思います。	特別支援教室の生徒だけでなく、個の生徒に応じた配慮についての校内での研修を実施する。
9	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	学校図書館の活用と充実	○学校図書館の利活用の推進	○朝読書の時間の充実 ○図書館管理員と図書委員会の連携	○図書委員会の生徒への図書管理員からのアドバイスによる活動の工夫	○朝読書への生徒の取り組み状況良好生徒が A: 95%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	3	生徒全員取組 良好 4	4.0	・今後のコロナ、そして修学旅行が実施できるのか心配です。	朝読書の実施と放課後の図書室開館と生徒委員会での働きかけを充実させていく。
10	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	4×4の取組	4×4の取組	○オリンピック・パラリンピック教育を通しての人間権感覚と国際感覚の醸成	○国際感覚の醸成	○TGGの利用によって自身の将来への展望や国際理解につなげる	○生徒アンケート回答での将来の国際社会貢献への意識ありが A: 40%以上 B: 30%以上 C: 20%以上 D: 20%未満	3	生徒アンケートで 84% 4	3.7	・今後のコロナ、そして修学旅行が実施できるのか心配です。	地域の人材活用によって国際社会での活躍を紹介できる場を設定する。
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	○学校行事、業務の効率化・スリム化 ○職務と職員の健康やプライベートの充実を両立させることのできる職場環境	○年次有給休暇・介護休暇等の取得推進 ○勤務時間の縮減	○年次有給休暇の取得日数増 ○長期休業期間中の定時退勤	○職員アンケート回答での満足・ほぼ満足が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 40%以上 D: 40%未満	2	職員アンケートで 71.4% 4	3.0	・パソコン部は現在無いが、需要があるのでは。	定時退勤日の設定や、休憩時にほっとできる環境など、職員の発案を検討していく。業務以外のコミュニケーションも大切にし、若手教員のメンタルサポートを進める。